

明へ13
號3735
卷27

明の寸
善路の

くまのけ

神彦化

國貞画

十四の甲上



一

赤乾ぬ袖も脚を洗ひ復本の白と黒との善悪

且明まゝてあめせと初鳥の羽色を擬せ油
烟墨の新しさと摺流しる硯海沖見の浦里の
庚詞と故人春馬のわびひつた解と水の若水小流
赤乾ぬ袖も脚を洗ひ復本の白と黒との善悪
分明其大詰をまろの内々速々作けとの主顧方の
芥余小力と兄方おむらひ吉書始めたる筆の毛卵
の正月元旦

柳亭種彦

自叙

鐔雨下巻を時てと
か造酒十五人しをうらぎとてきんぐ

月鳥一四



多かるる
道合

妙
大坂
二柳

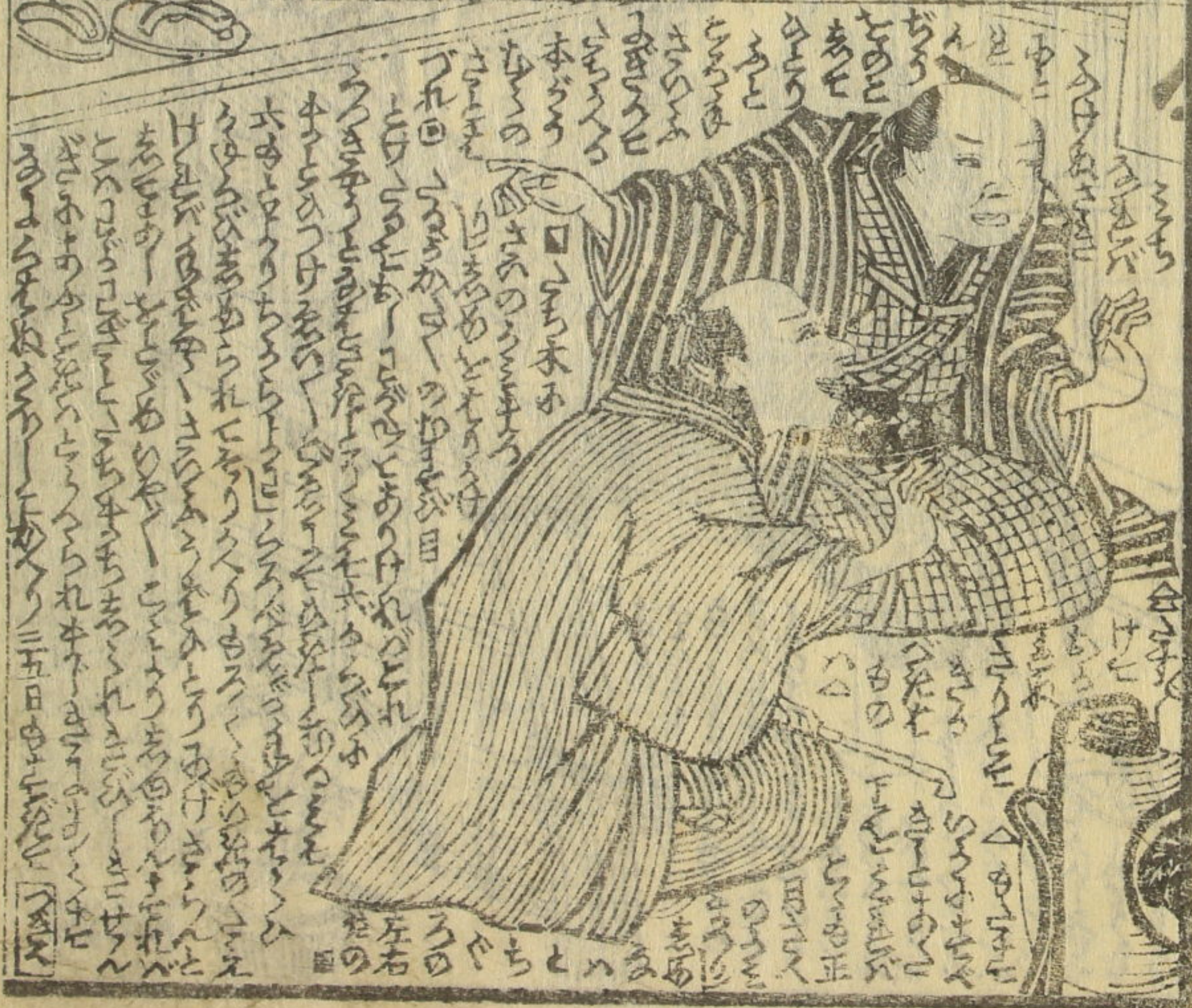
浦里
花子と
零落



小織之助

世小
商人
女





Handwritten Japanese text in the upper right corner of the left page, including characters like 月, 廿四, and various kana.

Handwritten Japanese text in the lower left and right corners of the left page, surrounding the illustration of the man and woman.

Handwritten Japanese text in the upper right corner of the right page, including characters like 月, 廿四, and various kana.



Handwritten Japanese text in the upper right corner of the right page, including characters like 月, 廿四, and various kana.

Handwritten Japanese text in the lower left and right corners of the right page, surrounding the illustration of the woman and the tea house sign.

種彦作國貞画



この世の普く沙汰せらるる
 皇孫 芦田の家小丸 倣人
 名は 長と申す 花と申す 宜く理のほろ
 草及紙小丸

實母散

本家
 實母散
 中橋海傳馬場 一白東
 葉堂考輔製

私方東馬場の御方より
 名は 長と申す 花と申す 宜く理のほろ
 草及紙小丸

鼠祠通夜譚

四編一入
 柳舟種彦作
 梅蝶博國貞画

厚化粧萬年嶋田

初篇一入
 梅蝶博國貞画

この世の普く沙汰せらるる
 皇孫 芦田の家小丸 倣人
 名は 長と申す 花と申す 宜く理のほろ
 草及紙小丸

